

進路講話

～「自分の人生は自分で決めたい」～

本校教育部：進路指導係

☆卒業生による進路講話

2022年3月4日、卒業生の大岩裕司様をお招きし、高等部を卒業した後の進路を考えている在校生に向けて、進路講話をしていただきました。進路講話のテーマは、「**自分の人生は自分で決めたい**」です。当たり前のように聞こえるかもしれませんが、とても考えさせられるテーマですよ。

大岩様は、現在勤務されている [NPO 法人「CIL 豊中 豊中市障害者自立支援センター」](#) で管理者をされています。CIL (Center for Independent Living) は **自立生活センター** を意味します。自立生活センターとは、**どんなに重い障害を持つ人も、地域で普通に自立生活できる社会の実現を目指して、自立生活及び権利擁護に関する事業活動を障害当事者が運営主体となっておこなっている、サービス提供機関**です。

大岩様には、**脊椎性筋萎縮症**という難病があります。本校教育部を卒業した後、**重度訪問介護制度**を活用しながら**ひとり暮らし**を始めました。パソコン関連のスキルを磨いた後は**起業**にも挑戦しました。CIL 豊中に**就職**されてからは、**結婚**や**子育て**もされています。

重い障がいがあっても、様々なことに挑戦し、豊かな人生を歩んでおられる先輩の話を聞いて、在校生も積極的に質問をしながら、大変多くのことを学ぶことができました。

それでは、当日の様子をご覧ください。



☆自分の人生は自分で決めたい

「自分の人生なのだから、自分で決めるのは当たり前じゃないか」そう思う方も少ないと思います。しかし、よく考えてみると、自分の人生を自分で決めていくことは、大変難しいことです。

どんな高校生でも、卒業が近づくと、「自分は何をしたいのだろう」「どんなことができるのだろう」「この選択でよいのだろうか」と悩むことがあると思います。本校の高等部の生徒も同じです。

大岩様は「特に障がいがある人は、時として他人が自分の人生を決めてしまうことがある」と言います。「自己決定」をしようにも、支援者に促されるまま選択をしてしまうことがあるのです。

21歳～24歳

- 一人暮らしを目指す
- 勉学に励む
- 様々な人に出会い経験を聞く
- 自立生活を始める！



☆卒業生としての言葉

進路講話では、「CIL 豊中の職員」よりも「刀根山支援学校の卒業生」として、在校生にも親しみやすいエピソードを披露したり、やさしい言葉選びをしていただきました。「スライドにあるようなめっちゃめっちゃ優等生…ではなく、イタズラもたくさんしてたんです」「病院を抜け出して、交通量の多いところで転倒しかけたり」「学校の先生の服に〇ン〇の香水をかけたり」など、現在の大岩様からは想像もできない話に、会場には笑みがこぼれました。

☆ある男性との出会い

刀根山支援学校に小学部から在籍していた大岩様は、病院である男性と出会います。その男性は、重い障がいがありながらも、地域で自立生活をされていたのです。

「一生、病院で過ごすのだろう」と考えていた当時の大岩様にとって、ものすごい衝撃だったそうです。「でも、自分には無理なんじゃないか…」と思いつつも、その男性との出会いにより、自立生活というものに興味を持ったのです。



サービス

- 生活全般 → 重度訪問介護 → 現在も継続
- 日中活動 → 生活介護 → 起業 → サラリーマン
- 経 済 → 生活保護 → 辞退
- 風 呂 → 訪問入浴 → 重度訪問介護
- 医 療 → 訪問看護 → 訪問リハ

☆高等部を卒業

高等部を卒業する頃には、当時の学校の先生と相談して、一人暮らしができるように色々なことを調べていったそうです。そこで重度訪問介護をはじめ、障害がある人の生活を支える様々なサービスや制度があることを学んでいきました。

☆自立生活をしていくということ

病院での生活を終え、自立生活を始めていくと楽しいことにもたくさん出会いました。様々な遊園地に遊びに行ったこと、旅行先で出会った魚屋さんと仲良くなってノドグロをいただいたこと、芸能人と一緒に写真を撮ったこと、現在の奥様とデートしたことなどです。

時には、大好きなお酒を嗜み過ぎて急性膵炎になってしまったこともあったそうです。「今は家族に心配をかけるのでお酒は控えめにしています。」と話してくれました。

豊かな**経験**を積むことで、自分にとって最適な**選択**ができるようになる。そして、自分で**決定**したことは、しっかり**管理**し、**責任**も持つ。そうすることで、**自分で決めた自分らしい生活**を手に入れたのです。



☆世の中は厳しいこともある

大岩様は「そうはいつでも、まだまだ厳しい世の中です。例えば…一人暮らしをしたくて、家を借りたいとしますね。そんな時に、障がい者には家を貸したくないという大家さんもいるのです。」「法理としてはNGであっても、**まだまだ偏見や差別はあるということ、制度も不十分なところがある**ということは知っておいてほしい」と話してくれました。続けて「大事なことは、**したいのならばしたい**ということです。そして、**何が問題なのかを明確にすること**です。」と話してくれました。

☆人との繋がり

大岩様は「自分の権利を把握することはとても大切です」「ただ、権利を主張するだけでは煙たがられるということもあります」「やはり**人との繋がりは大切にしてほしい**と思います。自分だけの力ではできないこともたくさんあるので」と話してくれました。

今回の進路講話も、まさに人との繋がりを大切にしてくださる大岩様だからこそ実現できました。在校生たちも、こんな立派な卒業生がいるんだということ、卒業後もこうして繋がってくれることのありがたみを実感できたことと思います。



☆質疑応答

質疑応答の時間では、生徒から、「人に頼みごとをするときに、どうしても遠慮がちになってしまいます。自分の意思をしっかりと伝えるにはどうしたらよいですか」という質問がありました。「うまく伝えられない自分も受け入れる」「小さな成功体験を積み重ねていく」「より具体的なことに関しては、もっと〇〇くんのことを知ってからきちんと答えたい」と返答していただきました。

また、「どのように今の奥様と恋愛関係になったのですか」という質問もありました。大岩様は恥ずかしがりながらも赤裸々に当時のことを話していただきました。

☆進路講話を終えて

一緒に進路講話に参加していただいた保護者様からは、「病気や障がいがあっても自立した生活を送ることができる」と知って驚きました。ありがとうございます。」などの感想をいただくことができました。

生徒の感想文からは「相談する力をつけたいと思った」「卒業生の実体験を聞くことで、本当に自立生活を送れるのだと分かった」「自分が思っていたことを聞いて良かった」などの言葉がありました。

お忙しい中、進路講話をしていただき本当にありがとうございました！